



「つらいだろうけど一年がんばってきてくれ」といわれ、どうなることかと思いつながら海を渡りました。しかし、私の肌に合ったのか、デオキシリボ核酸

DNAが合う

赴任前に島根県の上司に「海がいいか、山がいいか？」と質問され、徳島では山の中の診療所経験をしたので、即座に「海がいいです」と返答しました。

日本海の山陰沖に浮かぶ離島、隠岐の島にやって来て、はや九年目となりました。妻が同じく自治医大の一九九四年卒業で、私の出身地の徳島県で二人合わせ計十年間(私六年、妻四年)勤務後、妻の出身県である島根県へ来ました。

白石 吉彦 15期生、1992年卒



西ノ島の北西部にあたる国賀海岸。荒々しい絶壁の上には、緑に覆われたなだらかな牧畑が広がる

島根県隠岐広域連立隠岐島前病院

【私の勤務地】隠岐広域連立隠岐島前病院は43床。一般病床が19、療養型病床24。内科、外科、小児科を標榜(ひょうぼう)し、常勤医は私を含めて6名。加えて耳鼻科、眼科、精神科、産婦人科、整形外科は非常勤医による診療を行っている。

例えば、産婦人科は外来診察のみで分娩(ぶんべん)は行っていませんが、予定外に早く産まれてしまい、慌てることも何

度ありません。一度は、出産は無事終わりましたが、赤ん坊が未熟児で、元気が無く、緊急に搬送が必要となりました。

「太平記」の島です。離島という特殊性もあり、日常診療においてはまさに総合医としてすべての病気にとりあえず対応する能力を要求されま

す。休みの日にはヨットに乗ったり、魚釣りをしたり、近所の人から海の幸、手作りの自慢料理を頂いたりします。離島の医師は「居るのが仕事」のようなところもあり、家族とともにゆったりと時間を過ごしながら、緊急事態には全力を尽くすことをモットーに、もう少し離島生活を楽しまたいと思っています。

島前は対馬暖流に洗われる西海岸に高さ二〇〇―三〇〇メートルの断崖(だんがい)絶壁が続き、西ノ島の国賀、知夫里島の赤壁などは、西日本有数の海岸景観です。また海士には後鳥羽上皇、西ノ島には後醍醐天皇、文覚上人の遺跡や伝説が残る

「太平記」の島です。離島という特殊性もあり、日常診療においてはまさに総合医としてすべての病気にとりあえず対応する能力を要求されま

緊急時は全力、生活は満喫

(DNA)が海の生活を求めています。いたのか、けっこう楽しく過ご

している。隠岐の島は大きく島前(どう)

ぜん)、島後(どう)の二つに分かれます。島前は西ノ島西

ノ島町三千六百六人)、中ノ島(海士町二千五百三十六人)、知夫里島(知夫村七百四十一人)の三島に分かれています。

居るのが仕事

大しけの中、海上保安庁にお世話になったため、海保からとって「カホ」ちゃんと名づけられました。三力月かかりましたが無事退院し、今は元気に保育園に通っています。

(次回予定は若手県)